

4月14日に、当地区3期生として、RLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）研修を修了しましたので、RLIについて報告方々説明させていただきます。

RLIとは、「1992年ニュージャージーのデビッド・リンネット氏の発案で始められた、草の根による多地区合同リーダーシップ開発プログラム」を云います。RI理事会の推奨プログラムで、現在、世界の80%の400以上の地区が参加しています。

日本でRLIは、2008年に南園義一日本支部委員長の下で始められ、現在、北清治3代目委員長の下で、9割近い30地区が参加しています。

2020年に、リンネット氏の後、マクガバン氏が2代目委員長に就任してから、「本部体制」の刷新と「カリキュラムに関する方針」の変更が行われました。従来のRLI「標準」カリキュラムに、新たな6つの「フレーム」（「ロータリーの基礎」「奉仕と財団」「倫理と職業」「リーダーシップ」「クラブコミュニケーション」「会員基盤のテーマ」）が構成されました。各支部は地区ガバナーの管理下で柔軟なカリキュラムが可能となった為、日本支部は、カリキュラムと3つのパートの構成を改定し、特に独自の4つのセッションに工夫したとされています。

RLIの使命は、「質の高いリーダーシップ研修を通して、ロータリークラブを強くすること」にあります。RLIによって「会員一人ひとりがリーダーシップ意識を高めることにより、一層ロータリー精神を理解でき、参加者同士の活発な意見の交流を通して自己研鑽し、新たな気付きを得て、クラブの活性化に結び付けられる」とされ、更に、その成果として、会員維持・増強に繋がると期待されています。RLIはクラブリーダーの育成を目的としていますが、クラブ役職者に限らずすべてのロータリアンが参加できます。

RLIの各コースは10人前後の小グループで構成され、ファシリテーターが進行する対話型になっているのが特徴です。そして、ロータリーの寛容の精神に則り、すべての意見は尊重されます。RLIは3つのパートから構成され、受講には制約がありません。

RLIに参加して良かったのは、知識の習得は無論のこと、ディスカッションのプロセスが大事であることを学び、そして、長時間の研修を通じて他クラブのロータリアンとコミュニケーションが深まったことです。

RLIセミナーへの参加者は、当クラブではまだ僅かですが、RLIの手法はロータリーに限らず、会社や地域社会等で活用できるリーダーシップ開発プログラムですので、会員の皆様に於かれましては、機会あれば積極的な参加をお願い致します。